

車体外装関係



2024年度に納車した車両を元に救急隊員のヒアリングを行い、その要望の殆どに応えました。元々、ハイレベルに出来上がっていましたので、細かい仕上げ作業に近い感じです。消防機関向け救急車としてはハイエンドの完成形と思われます。

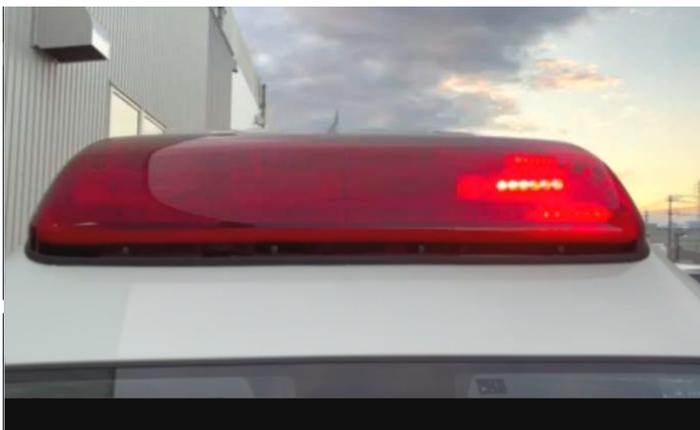
関連:「～高・規格の進化へ～」↓(2024年記事)

<https://akao-co.com/products/3305/>



今期モデルの外観上の大きな違いは、窓ガラスの外側に白フィルムを貼っています。内側面に断熱・防音材を貼ってあるからです。

白フィルムの色が浮いて見えるのが嫌なので、ボディと同色に特注調色しました。



可変ビーコンFSH-2 (赤色点滅灯の発光パターンを変更できる (には興味はありませんでしたが、) 現場停車時の発光を弱める機能は欲しい、との声があり、ソフトモードだけ作りました。Pレンジで連動します。(連動解除も可))

↓動作はこちらから見る事が出来ます

<https://akao-co.com/wordpress/wp-content/uploads/2024/12/Soft-Hard.mp4>

これは既存配線を置換えるだけで設定可能です。なので既に保有の救急車にも後付け出来ます。

「散光式点滅変更ハーネスキット **FSH-2**」

<https://akao-co.com/products/3218/>



動作にあたって、サイレンアンプの機種は特に選びません。今回はパトライト製を選択。高警告サイレン音は、この地域ではまだ珍しいようです。



定番の「パドル・サイレンリモート」です。

盲目的に操作が出来ます。 <特許出願中>

- ・右パドル: 「ウ～」音吹鳴
 - ・左パドル: 「救急車が通ります進路を～」発声
- ※これもサイレンアンプ機種は不問です。

動画↓

<https://akao-co.com/wordpress/wp-content/uploads/2023/02/PaddleShifterSirenremori.mp4>



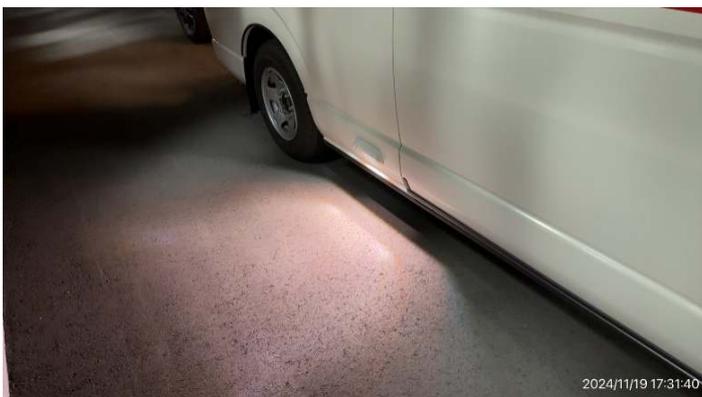
サイレンスピーカーには防雪カバーを装着。
夏は虫除けに？



秋田市の車両の消防章台座に有るツノの
ような物、コレ何だか分かりますか？
これ、出初式の際に旗を立てる‘旗立て’
なんですよ。珍しいですね。



バックドア上部に雨トイを装着してみました。
バックドアを開閉した際に、溜まった雨水が
滝のように座席やキャビネットに落ちてきた
経験はあるかと思いますが、それを防止します



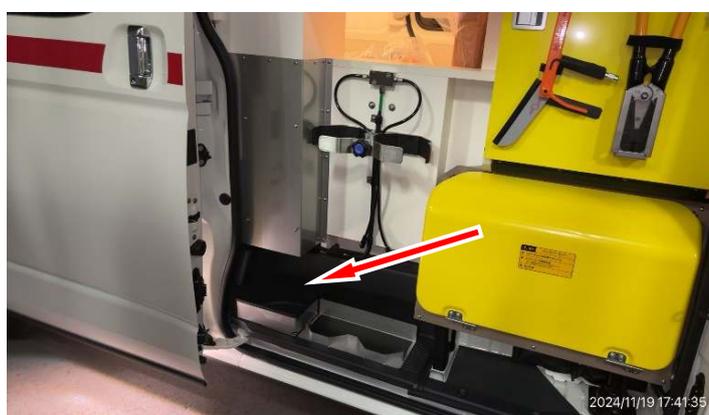
路肩灯は、ボディの外面に装着しています。
後輪付近を広く、明るく照らします。





レスキュー・ツールセットを**減数**
平成初期からの名残で5点セットを装備している車両は多いですが、実際の使用頻度は如何でしょうか？

今回は3点のみに絞り込み、その費用分でレベルアップ改造に充当しました。



通常、ゴミ箱のある部分は収納庫化しました。その下は、機関員が使うモノを入れるスペースにしています。



室内側はこんな風になっています。咄嗟の受水盆等が置けますね。

電装関係



車両バッテリーの充電器です。車外から一目で充電状況を目視出来るように敢えて運転席の上部に着けています。





外部入力コンセント
着脱はワンタッチ式のままですが、蓋を大きくして、直ぐに出場出来るように、操作性を改善しました。



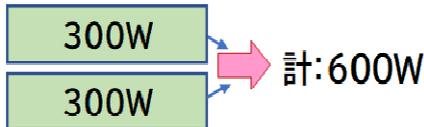
屋外用の樹脂製なので錆の心配はありません。



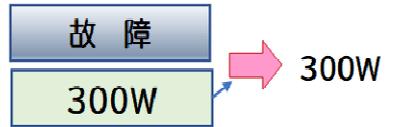
●インバーターは、**定番の600W**ですが、ダブルインバーターをシンクロさせることで、合計600Wを引き出しています。

万一、搬送中にインバーターが故障しても、もう一台が出力出来ていれば、300Wは出力できます。長距離搬送時に電源喪失状態にならないメリットが得られます。

<平常時>



<1基故障時>



右後部と左前部のコンセントは、4連縦置きにしています。
この位置でACコンセントを使いたいことが多いでしょうから多めにしました。

コンセントは医療機器の裏では無く、上方に設置されている方が使い易いです。

運転室内架装



運転室内全景。ここは大きな変化無しですが、運転室の天井にも断熱・防音材施工してありますので、緊急走行時も会話が可能です。

周波数感应型サスペンションのおかげで、乗り心地が大幅に向上。振動や振動音は大幅に減少した上、コーナリング性能も向上しています。

乗り心地の向上



足回りは全て、**周波数感应型サスペンション**に変更してあります。ノーマルの容量不足を改善します。

実は、室内の静粛性は、断熱・防音材の施工の効果だけではなく、どうやらこの足回りの改善による相乗効果も大きいです。



隊長用インナーミラー
位置を好みで変更されるように造作しました。

縦向きで使う、はもう古いのかな↓



運転室と患者空間は、隔壁仕様です。縦型収納庫の扉を流用することで、余計なフロント重量増加を防ぎます。

患者室内架装



三連式酸素吐出口

酸素吐出口は左から
川重型×1、ジュンロン×2 の3連

酸素流量計は、ダイヤル式で
0.25~15ℓ/分 出力します。

左下のダイヤルは室内灯の調光・調色用。
後ろ向きに**着座したまま操作**が出来る
ようにここに増設しています。

後方からの室内全景です。

明るく見えるのではなく、**LX-12**を装備しているので実際に**3倍明るい**です。

車内でのルートも取り易くなりますし、この空間に搬入すれば皮膚色から正確な情報を得られます。



明るさ3倍

●大型LED室内灯 **LX-12**については↓
<https://akao-co.com/products/3299/>

<バックドア側から>

左図は、ウォークスルー部隔壁を閉じて
いる状態です。



<左スライド扉側から>

室内灯は、やや暖色モード

防振架台は**VCS-03**

<https://akao-co.com/products/3067/>



右後方のマスクトレイを**最大限に延長**し、収納容積を増やしました。輸液用フックは、手前に移設しています。その方が、近くて使い易いかも。



左の窓ガラス部にも**断熱・防音・安全加工**を施しています。左にも施工すると、防音効果が従来モデルより一層向上し、隊員間の意思疎通に役立ちます。

左面に断熱・防音・安全加工を施す目的は、側面追突をされた際、ベンチシートに座っている**付添人や乗員に対する安全性の向上**を狙っています。

※日本の高規格救急車には、側面追突の安全基準が無いので、今やれることをやって世に問います。



断熱・防音材は運転室から患者室天井後部までビッシリ施工します。

左図は施工前の状態ですので、何も無い状態。



-7db 静粛性up

では、実際にどれくらい室内の音が静かになっているか？実験を行いましたところ、ノーマル比 **約-7db (患者枕元)** という驚きの効果が確認出来ました。

そのうち論文にしたいと思います。





もう、お尻が落ちない👍

ベンチシートとハイバックシートの間です。細かい部分ですが、分かりますでしょうか？この灰色クッション、と茶色座面の隙間を出来る限り減らしました。クッションを90°回しただけですので、大したことでは無いんですけどね。

通常はこんな感じに空いてますね



↑表皮レザーの色も厳選しました。

特装車とは言え、いかにも、作りました感大な、ズした色で作られるのが個人的に嫌なので。

後ろ向き座席の背もたれ部を書類入れに改造しています。A3サイズのファイルを収納可能。

留め具は、弊社のシコロ用を流用



ホワイトボードは、マグネットで着脱式に変更しました。

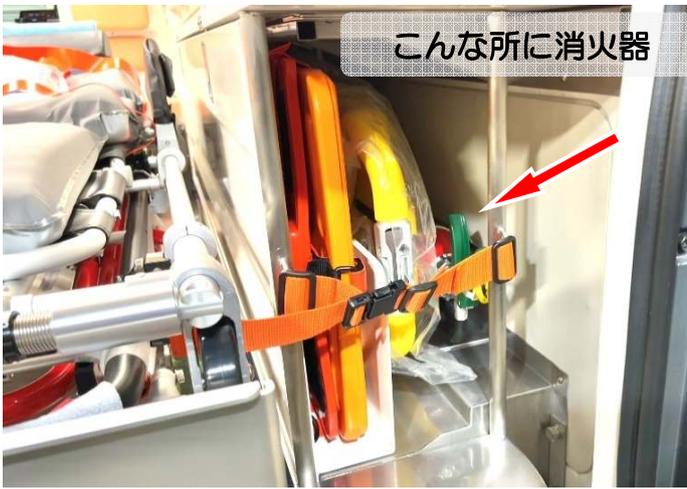
患者さんと筆談出来ます。



株式会社

赤尾

無断商用利用を禁ず



ハイバックシートの下にモノを置きたいとの要望に應えるため、消火器をスクープの右脇に移設しました。

よくあるパターン↓



床面防水処理は、全部やる！
床と設置する‘辺’にはすべて防水処理コーキングを行わないと、洗っても洗っても‘いつまでも血が滲んで出て来るんですけど’を止められないのです。



防水加工は必須

左サイドステップの縁とか床後端のステンレス金具とか外してみたことありますか？

～おわりに～

もう20年以上前になるが、この消防署に救急車を納めたことがある。思い出は一杯で書ききれないが一つ言うなれば、今では当たり前な防振架台の「外側ガイド」は、ここから始まった。

当時の救急車も最高峰の仕様と言える程にやり切っていて、あとは「もっと早く患者のもとへ！」という‘願い’を込めてフロントリップを装着するくらいしか無かった程だ。

大変有難いことに色々な縁あって今回再びこの救急車に携わる事が出来たが、造るからには当時のレベルを超えなければならない。過去のプレッシャーに抗うべく細部に気を遣った。レベルアップ出来たかどうかは作る側が言う事ではなく、使う救急隊が評価することだ。しかも、ここには当時、私に救急について沢山教えて頂いた大先輩救急救命士が健在であり、それ故に緊張は最高潮である。教えて頂いた事を大いに発揮した自信作だが判定はいかに？



(2003年)

関連：「～高・規格の進化へ～」↓(2024年記事)

<https://akao-co.com/products/3305/>

AKAO 救急車 相談窓口

株式会社 赤尾・特需部 救急担当
東京都千代田区外神田6-13-13
03-3832-2204